

分娩時年齢の高年齢化 現状と問題点

第54回記者懇談会（2012.5.9）

公益社団法人日本産婦人科医会

幹事 奥田美加

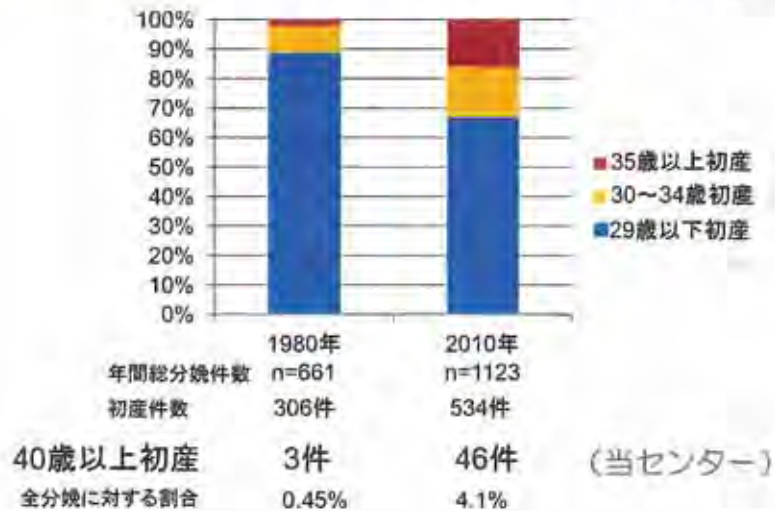
（横浜市立大学附属市民総合医療センター
総合周産期母子医療センター）

高年妊娠

- 高年初産
 - ✓1991年以前：30歳以上
 - ✓現在：35歳以上
- 出産の高年齢化は、1980年代から90年代にかけてすすんできた
 - ✓とくに2000年以降、すべての初産のうち1割を超え、晩産化がすすんでいる

高年初産（現在の定義：35歳以上）

1980年当時の定義：30歳以上



高年妊娠の問題点

- ✓妊娠しにくくなる
- ✓流産率が上昇する
- ✓さまざまな産科異常の率が上昇する
 - 妊娠前からある異常：子宮筋腫など
 - 妊娠中の異常：妊娠高血圧症候群，妊娠糖尿病など
 - 分娩時の異常
 - 分娩誘発や陣痛促進を必要とする率が上昇する
 - 帝王切開率や器械分娩率が上昇する（特に初産）
 - 分娩時出血量が多い傾向 - 低体重児が多いとの報告も
 - 染色体異常の頻度が上昇する

※妊婦のリスクスコア 「40歳以上」だけで 5点
 （4点以上は周産期センター，大学病院での分娩が求められる）

不妊治療をする医師も
分娩を取り扱う医師も
高年妊娠の扱いには
苦慮している

- 先日開催された日本産科婦人科学会学術講演会において発表された一般演題数

✓高年女性に対する不妊治療の話題	2件
✓高年妊娠の検討	5件

40歳以上の高年初産に関する検討
(当センター)

- 初産1,219例の検討（除外：20歳未満，母体搬送例，多胎，死産）
- 40歳以上：35例
- 妊娠糖尿病，妊娠高血圧症，帝王切開率，分娩誘発・促進施行率が有意に高い
- 分娩時出血量が20歳代に比べ有意に多かった（平均520g vs 393g）
- このときの検討では，分娩所要時間に差はなかった（ただし経膈分娩完遂例）

日産婦神奈川会誌, 41(2): 132-136, 2005

高年初産に関する検討 (当センター)
35歳未満, 35歳~, 40歳~の比較

- 不妊治療による妊娠の率, 帝王切開率は年齢が高いほど上昇する
- 妊娠高血圧症候群は, 35歳以上では35歳未満に比し高頻度
- 分娩時出血量は年齢が高いほど多い
- 分娩所要時間は40歳以上で長い
✓ただし時間がかかった上で帝王切開に切り替えた例は含まれない
- 早産率, 新生児入院率に差はない

2012/4/15 日本産科婦人科学会学術講演会にて発表

- 他の施設の検討では, 当センターで差の
みられなかった因子について, リスクありとする報告もみられる (早産率や低出生体重児, 新生児入院率など)
- 高年初産, とくに40歳以上の高年初産がハイリスクであることは, 各施設の共通した認識である

初産，単胎の帝王切開率（当センター）



染色体異常児の出生頻度

母年齢	Down症 生産率	全染色体異常 生産率	母年齢	Down症 生産率	全染色体異常 生産率	母年齢	Down症 生産率	全染色体異常 生産率
20	1/1,667	1/526	30	1/952	1/385	40	1/106	1/66
21	1/1,667	1/526	31	1/909	1/385	41	1/82	1/53
22	1/1,429	1/500	32	1/769	1/322	42	1/63	1/42
23	1/1,429	1/500	33	1/602	1/286	43	1/49	1/33
24	1/1,250	1/476	34	1/485	1/238	44	1/38	1/26
25	1/1,250	1/476	35	1/378	1/192	45	1/30	1/21
26	1/1,176	1/476	36	1/289	1/156	46	1/23	1/16
27	1/1,111	1/455	37	1/224	1/127	47	1/18	1/13
28	1/1,053	1/435	38	1/173	1/102	48	1/14	1/10
29	1/1,000	1/417	39	1/136	1/83	49	1/11	1/8

出典: 遺伝カウンセリングマニュアル(南江堂)

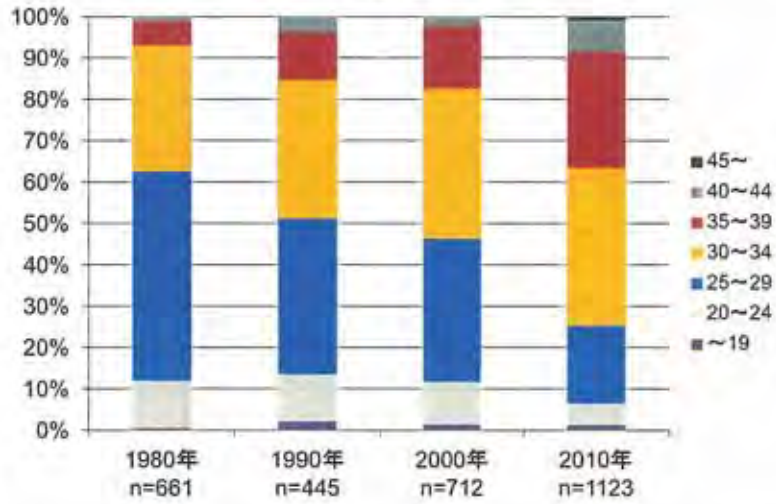
高年妊娠

- その他、高年妊娠の問題点
 - ✓手術例では、高年齢の方が、深部静脈血栓症のリスクがより高い
 - ✓出産後の子そだて、ライフプラン
 - 体力的に困難なことがある
 - 祖父母が高齢で、サポートが得られにくい
 - ケースによっては平行して親の介護が必要
 - 45歳で出産したら、子が大学を卒業する前に定年
 - より責任のあるポストに就いている場合
 - 仕事の両立、産休取得が困難？

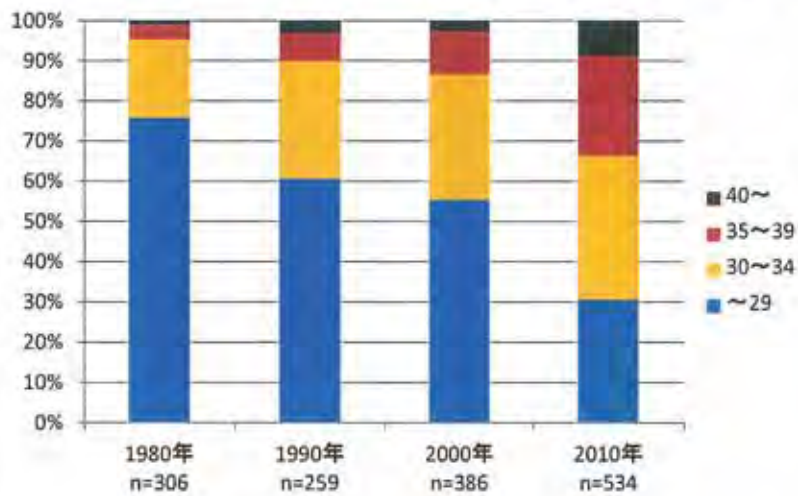
いま何が起きているか

- 大学附属病院 産科医療の現状
 - ✓横浜市立大学附属市民総合医療センターを例に
 - ✓同院の分娩台帳などから、妊産婦さんの年齢について調査してみました
- 「母子保健の主なる統計」から、我が国の出産年齢を調べてみました

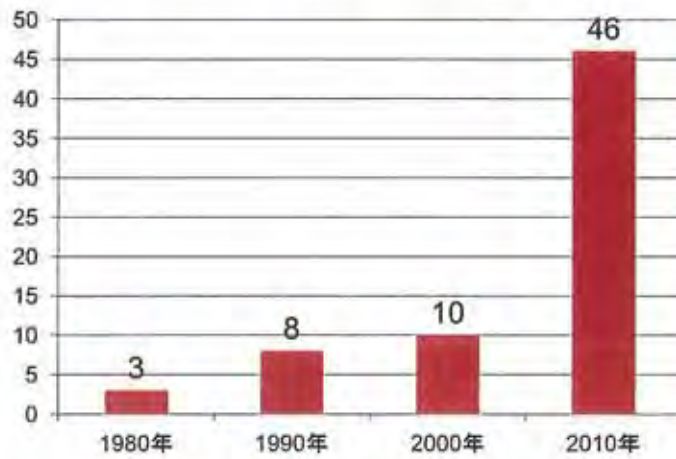
当センター 分娩時年齢（割合） 初産・経産すべて



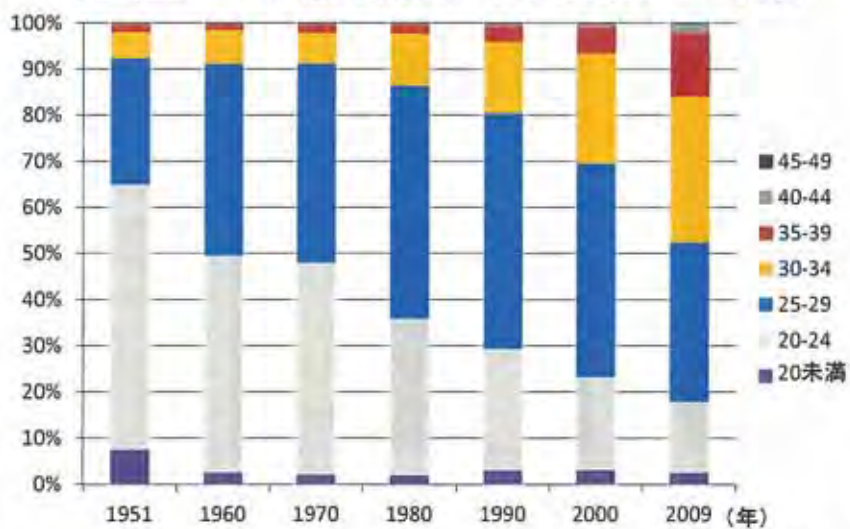
当センター 初産の年齢構成



当センター 40歳以上初産の取り扱い件数



全国 年齢別第1児出産人数



母子保健の主なる統計 より

染色体異常と流産

- 染色体異常の頻度
 - ✓ 受精時 40%
 - ✓ 着床前 25%
 - ✓ 妊娠前期 10%
 - ✓ 中期以降 0.6%
- 臨床的に妊娠と診断された女性の流産率＝約15%
- 不育症に関する厚労省研究班によると
 - ✓ 流産組織の染色体異常は、約80%
 - ✓ (従来は60%程度とされていた)
 - ✓ 女性の妊娠年齢が高年齢化したことが一因と考えられている

卵の加齢

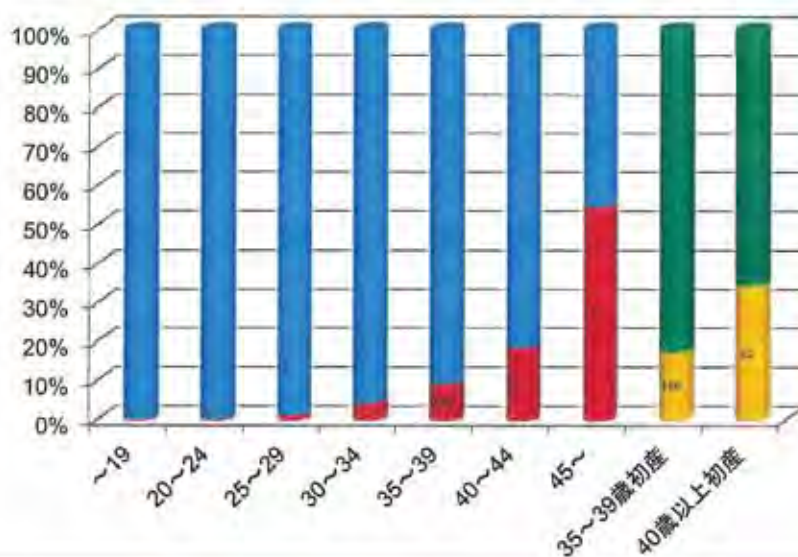
年齢が上昇するほど
卵子の染色体異常の確率が上昇する

- 卵母細胞は第一次減数分裂の前期である複糸期に細胞周期を固定され、排卵時まで長い休眠期に入る
- 排卵前に第二次減数分裂を開始し、受精により完了する
- 複糸期で固定されている間に、何らかの物理的・化学的刺激により染色体・遺伝子に異常が生じやすくなるため、相同染色体の不分離(→染色体の数的異常)が起こりやすくなると考えられている

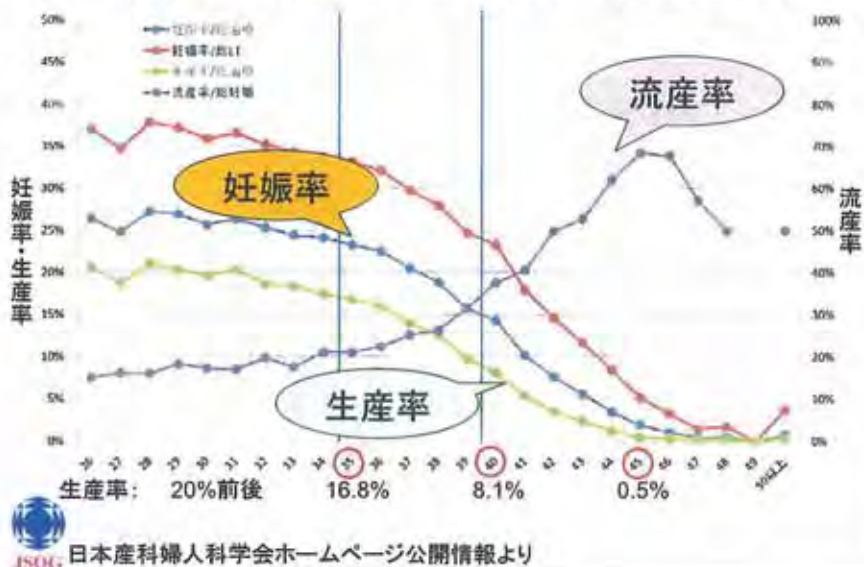
ART（生殖補助技術）と加齢

- 不妊症患者の高年齢化が顕著
 - ✓20年前は、40歳がみえてくると引導ムード
 - ✓現在は、40歳以上の通院は少なくない
- 年齢上昇に伴い妊娠率が低下するが、提供卵子によるARTの場合は低下しないらしい
 - ✓妊娠率の低下，流産率の上昇には卵の加齢が関与している

当センター 年齢別 ARTの割合

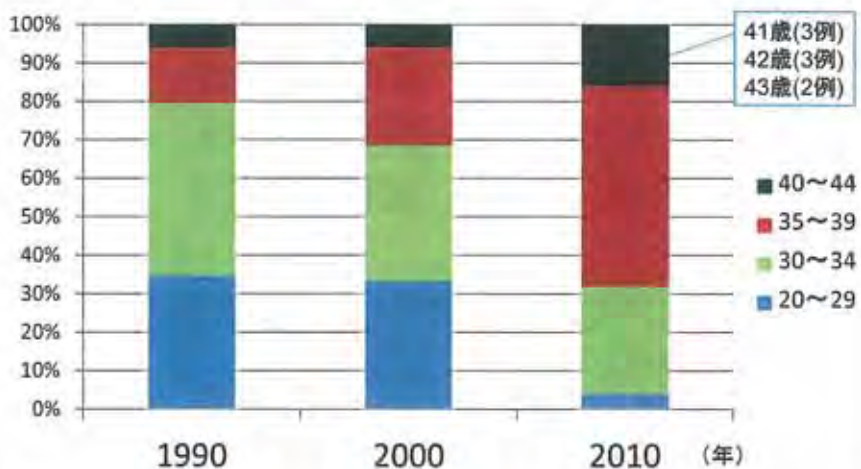


日本産科婦人科学会ART成績（2009年）



不育外来 初診時年齢

(当センター)



不育外来初診年齢別 生児獲得率
(判明分のみ)

20～29歳	64%
30～34歳	50%
35～39歳	50%
40歳～	14%

(当センター、検査終了後未来院例を含む)

ART例における連続流産の確率
(単純計算)

- 流産率15%の年齢：2回 2.2%
 (20代) 3回 0.3%
- 流産率68%の年齢：2回 46.2%
 (45歳) 3回 31.4%

実際には次回妊娠の年齢が上昇するので
もう少し高い可能性があります